

1、幼稚園の教育目標

緑深い木々と広い運動場、整った設備の中で、いきいきとした「心身の健康」と「体力増進」を中心に、一人ひとりの個性や諸能力を十分に発揮させ、情操を豊かに人間形成の基礎を確立することを目標とする。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼児教育要領について理解を深め、職員一人ひとりが丁寧に子ども達と向き合い、子どもの主体性を十分に引き出し、個々の発達に合わせたカリキュラムを作成する。また、年齢に応じた運動カリキュラムによる活動や集団での運動遊びを通してそれぞれの課題や特性に応じた配慮や環境構成などの支援体制を充実させる。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
幼稚園の教育課程の編成 実施や目標に基づいて 計画性や保育教育のあり方	A	保育の計画性については、年齢や季節、子どもの興味や様子に合わせて計画を立て、安全に配慮した環境作りを行った。自由遊びや戸外活動では計画に基づいて工夫を重ね、子どもが落ち着いて主体的に活動できるように支援し、様々な経験を通して心身の成長につなげた。
具体的な保育の在り方 幼児への対応や保育内容 教職員の共通理解	B	具体的な保育の在り方として、各クラスの様子を意識的に把握し、一人ひとりの発達段階や特徴、日々の変化に応じた関わりを心がけた。子どもが自ら考え、気持ちを言葉で表現できるよう、適切な問いかけや、その子に合った言葉かけを行い、安心して過ごせる関係づくりに努めた。また、困り感や不安を抱える子どもにも早期に気づき、寄り添った対応を行うことで、安定した園生活につなげた。教職員間で子どもの姿や関わり方を共有し、共通理解を図りながら、トラブル時には双方の気持ちを受け止め、話し合いを通してより良い関係作りへと導く保育を実践した。
教師としての資質や能力 教職員間の相互理解	B	教師としての資質や能力の向上に努め、教職員同士で声をかけ合い、情報共有や相談を行いながら連携して保育に取り組んだ。行事や日々の保育、緊急時の対応においても、学年や立場を超えて協力し、円滑な運営を心がけた。一方で、経験不足から判断に迷う場面もあった為、今後は報告・連絡・相談をより意識し、日頃からのコミュにケーションを大切にしながら、教職員間の相互理解を深め、より質の高い保育の実践につなげていきたい。
保護者への対応	A	日々の子どもの様子や小さな成長、変化を具体的に伝え、保護者が安心して園生活を任せられるよう丁寧な対応を心がけた。怪我や伝達事項がある際には速やかに共有し、分かりやすい説明に努めた。また、挨拶や日常的な声掛けを大切にし、信頼関係の構築につなげた。

地域とのかかわり	C	地域行事や日常的な関わりを通して、地域の方への挨拶や交流を意識し、園として良い印象作りに努めた。 地域の方も参加可能なバザー模擬店の開催し地域の方と交流を持つことができた。一方で、園庭開放は1回のみの実施となり、未就園児との交流機会は十分とは言えなかったため、今後は回数を増やし、関わる機会を意図的に広げていきたい。
研修の取り組みについて	B	新任研修を含め、全教職員が意欲的に研修に参加することができた。今年度も去年に引き続き、教職員全員が対面での研修に参加し、園内にて研修報告会を実施したことにより、他の教職員から学んだことも保育活動に活かすことができた。
安全面に配慮した環境づくりと地域の自然や社会との関わりや取り組み	A	防犯・防災・防火訓練においては、不測の事態への対応力を養うため、計画的な訓練に加え、予告なしの「抜き打ち訓練」を実施した。これにより、職員一人ひとりの危機管理意識の向上と実効性の高い対応体制の構築につなげることができた。 園内の安全点検を定期的に行い、通路の劣化や段差など、転倒の恐れがある箇所については即座に修繕対応を実施し、子ども達が安心して活動できる環境の維持に努めた。

◎評価結果の表示方法

- A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない
D 取り組みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
B	1年を通じて子どもたちが「楽しい園生活」を過ごせるよう、子どもの姿を観察し職員間での意見交換を行いカリキュラムの見直しや工夫を行ってきた。又子ども一人ひとりの関係を大切にしてきたつもりではあるが行事前で忙しく保育者の気持ちに余裕がなくなり不十分に感じる事や支援児への関わりが密になりクラス全体への関わりが不十分に感じる場面もあったので広い視野と見通しを持って子どもたちと関わっていきたい。 次年度の課題としては保育での悩みや保護者からの相談事を若手の先生が一人で抱え込んでしまう事があり保護者の不信感に繋がりがねない場面があったので相談できる環境や発言できる機会を増やすために園内での研修や教職員同士の関わりを考えていきたい。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
子どもとの関わり環境構成について	一人ひとりに寄り添い個々のかかわりを大切にしながら子どもの主体性や対話を大切にし、年齢や個々の発達段階を理解した上での保育や声掛けを意識する。又、子ども主導のもと遊びの発展が出来るよう環境構成を工夫していく。
運動遊びの取り組みについて	学年に応じた運動カリキュラムを作成し、子ども達が普段の保育や遊びを通して楽しく目標に向う事が出来るように工夫し達成感を感じる事が出来るようにする。又、指導を行う上で怪我防止に努め目標に到達するまでの段階をしっかりと理解し指導を行うようにする。

環境構成の 取り組み	環境構成が十分に整っているかを事前にしっかりと確認し、起こりうるけがの防止に努める。又子どもたちの遊びが持続し更に発展していけるような配置や環境構成を意識する。
地域社会 研修について	地域社会については、園周辺の施設を知り、職員間で共有するとともに地域交流ができるよう話し合いの場を設け、就学前の取り組みとして小学校への期待が持てるような取り組みなど積極的に検討していきたい。 研修については、外部の研修はもちろんのこと、園内での研修を積極的に取り入れ職員間での意見交換する場を増やしていきたい。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。